

# 逆面の獅子舞

(天下一関白流神獅子)



逆面(さかづら)の獅子舞は、宇都宮市の市街地を北に8kmほど行った、田原地区の田園地帯の北西の丘陵地帯の一角にある、古い城跡を中心にした「逆面」という少々風変わりな名の集落に伝わる獅子舞です。

「逆面」の地名の由来は、奈良時代の高僧「弓削道鏡」が、下野薬師寺に配流されたおり、この地に立ち寄り、水面が畑より高い井戸を見て、この地を「逆面」と命名したと言い伝えられています。

今も、逆面の山間にある畑の中に「逆さ井戸」という名の古い井戸があり、道鏡が井戸の水を飲もうとしたところ、自分の顔が逆さに見えたという伝説も伝えられています。

逆面の獅子舞は、笛の音に合わせて腹に付けた太鼓を打ち鳴らしながら、「雄獅子」「女獅子」「若獅子」が勇壮に舞ます。

これは、一匹ごとに一人が入って三匹で踊る、「風流系一人立ち三匹獅子舞」といわれるものです。

# 逆面の獅子舞(天下一関白流神獅子)

## 獅子舞の由来

今から約600年以上前の室町時代初期、元中年間に、流行病(はやりやまい)が蔓延し、困り果てた人々は、この災いが少しでも早く終焉するようと、獅子舞を舞い、村の辻や家々を祓い清め、悪霊の退散を願ったところ、流行病はたちまちのうちに胡散霧消(うさんむしょう)してしまったとの言い伝えがあります。

それ以来、逆面の人々の「守り神」として、願い事を先祖の霊にお願いする役目を担い、地域の繁栄はもとより、先祖供養、村中の安全、五穀豊穰、子孫の繁栄を祈って毎年8月15日の「月遅れの盆」と、そのあとの二百十日までの間の好日の「風祭り」の2回奉納されてきました。

また、江戸時代になり、逆面は近隣六ヶ村共に宇都宮二荒山神社の御神領とされたため、宇都宮二荒山神社の普請等には、獅子舞の地固め奉納をしていたと伝えられています。

逆面では、明治維新の神仏分離令により、逆面の寺であった高德寺(こうとくじ)が廃寺となり、獅子舞を存続するため、明治15年頃、「日下開山天下一流(ひのしたかいざんてんかいちりゅう)」から、「天下一関白流(てんかいちかんぱくりゅう)」と改称し、高德寺から白山神社(はくさんじんじゃ)に祭りを移し、現在へと伝えられているそうです。



8月15日早朝、公民館から、白山神社へ街道上りが行われます。笛の音に合わせて、地区内の街道を総勢約30名の行列が練り歩きます。

白山神社に到着すると、本殿の前で庫裏(くり)の舞を舞って、祭りの成功をお願いした後、本殿に獅子頭を飾り、街道上りが終わります。

獅子舞の演目は、農民の自衛のための技が芸能化した棒術「やっとせ」で獅子舞の舞台を清め、先祖の霊をお呼びする「ワタリの舞」、「平庭の舞」、五穀豊穡を願う「蒔寄の舞(まきよせのまい)」、「庭の舞」、「弓くぐりの舞」などがあります。

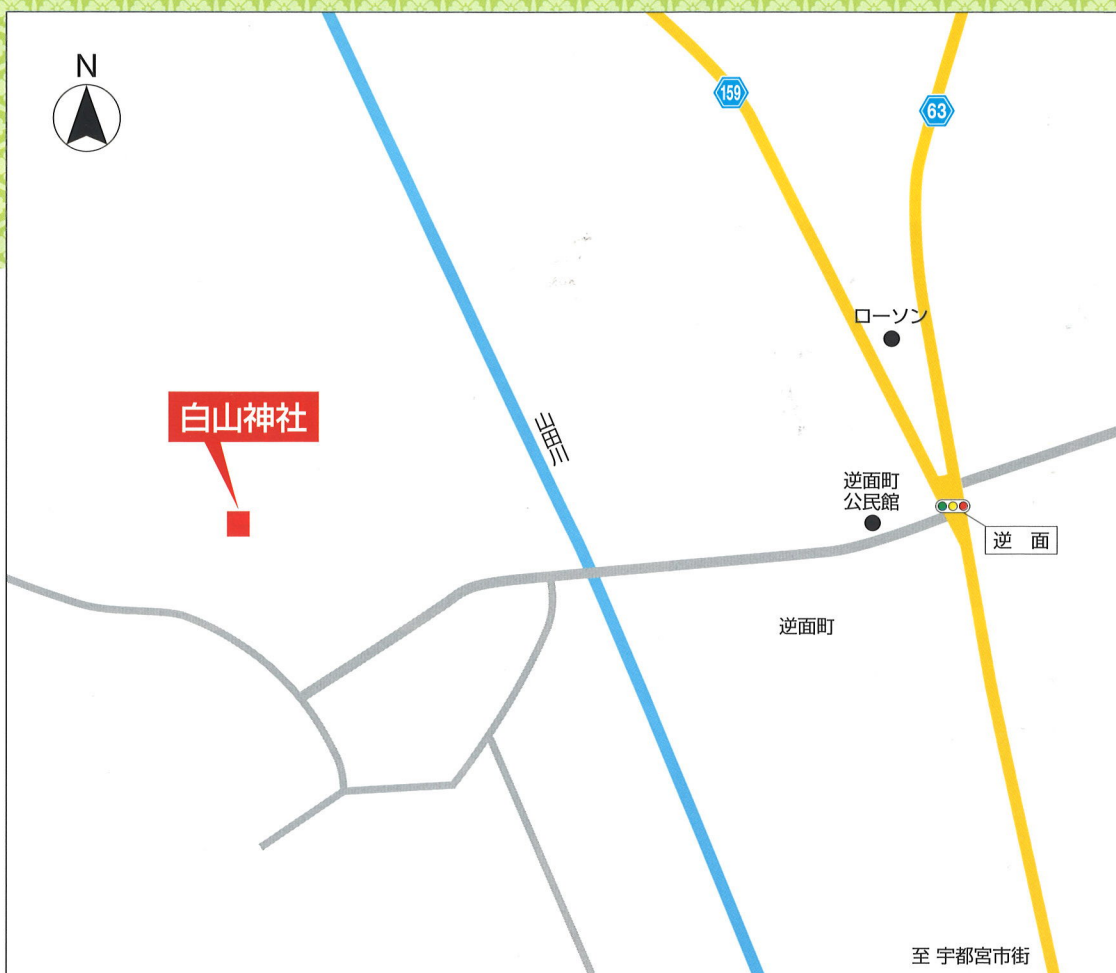
途中、獅子唄が唄われたり、「おかめ」と「火男」が登場したりもします。

また、後継者となる、子供たちによる獅子舞も行われます。地元の田原小学校では、平成7年より、逆面獅子舞の一部を「獅子舞体操」として取り入れ、毎年運動会で発表しています。

最後に「花啜り(はなすすりのまい)」が舞われ、神社境内での獅子舞は終わりとなります。

舞が終了した一団は、街道下りへと出発し、暗くなるまで、新盆の家や、1年間お世話になった家を回り、獅子を奉納して清めていきます。





## 《逆面の獅子舞のご案内》

実施日：8月15日(月遅れの盆)

8月下旬(二百十日までの間の好日)

※各年の実施日は、下記連絡先までお問い合わせください。

場 所：白山神社



平成22年度宇都宮市伝統文化映像記録作成事業

企画・製作：宇都宮市教育委員会

協力：逆面獅子舞保存会・逆面獅子舞愛好会

助成：文化庁 平成22年度地域伝統文化総合活性化事業

発行日：平成23年3月31日

著作：宇都宮市教育委員会

連絡先：宇都宮市教育委員会文化課

宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL.028-632-2764

FAX.028-632-2765